

【012】 次の表から確実にいえるのはどれか。

国民1人当たりの食料の消費量の推移

(単位 kg)

区分	平成23年度	24	25	26	27
畜産物	134.8	136.2	135.9	136.5	138.7
野菜	90.9	93.5	91.7	92.2	90.7
穀類	92.0	90.6	91.1	89.9	88.8
果実	37.1	38.3	36.8	36.0	34.9
魚介類	28.5	28.9	27.4	26.6	25.7

- 平成 25 年度から平成 27 年度までの各年度における魚介類の消費量の対前年度減少量の平均は、1.0kg を下回っている。
- 果実の消費量の平成 24 年度に対する平成 27 年度の減少量は、穀類の消費量のその 2 倍を上回っている。
- 表中の各年度とも、畜産物の消費量は、魚介類の消費量の 5 倍を下回っている。
- 平成 24 年度の果実の消費量を 100 としたときの平成 27 年度のその指数は、90 を下回っている。
- 表中の各区分のうち、平成 26 年度における消費量の対前年度減少率が最も大きいのは、魚介類である。

【013】 次の表から確実にいえるのはどれか。

鉄道車両生産両数の対前年度増加率の推移

(単位 %)

区分	平成24年度	25	26	27	28
JR向け	△ 12.1	△ 3.5	7.6	△ 15.5	6.7
民鉄等向け	△ 25.1	14.3	△ 4.0	36.1	11.1
輸出	145.5	79.6	△ 55.2	109.2	△ 59.3

(注) △は、マイナスを示す。

- 輸出の鉄道車両生産両数の平成 24 年度に対する平成 27 年度の増加率は、民鉄等向けの鉄道車両生産両数のその 1.5 倍より大きい。
- 平成 27 年度において、民鉄等向けの鉄道車両生産両数の対前年度増加率は、輸出の鉄道車両生産両数のそれを下回っている。
- 平成 28 年度の輸出の鉄道車両生産両数は、平成 25 年度のその 40%を超えている。
- 表中の各年度のうち、J R 向けの鉄道車両生産両数が最も多いのは、平成 26 年度である。
- 平成 24 年度の民鉄等向けの鉄道車両生産両数を 100 としたときの平成 28 年度のその指数は、170 を上回っている。

【012】 5

- 1 順に、 $-1.5$ 、 $-0.8$ 、 $-0.9$ 、 $3.2 \div 3 = 1.066\cdots$   $1.0\text{kg}$  を上回っている。
- 2 果実： $38.3 - 34.9 = 3.4$  穀類： $90.6 - 88.8 = 1.8$  2倍以下。
- 3 26年度、27年度は5倍以上。
- 4  $34.9 \div 38.3 = 0.911\cdots$  90以上

【013】 4

24年度を100として、

25年度： $100 \times 0.965 = 96.5$

26年度： $96.5 \times 1.076 \doteq 103.83$

27年度： $103.83 \times 0.845 \doteq 87.74$

28年度： $87.74 \times 1.067 \doteq 93.62$

- 1 輸出： $100 \times 1.796 \times 0.448 \times 2.092 \doteq 168.32$  民鉄： $100 \times 1.143 \times 0.96 \times 1.361 \doteq 149.34$  1.12倍程度
- 2 この表から生産両数はわからない
- 3 この表から生産両数はわからない
- 5  $100 \times 1.143 \times 0.964 \times 1.361 \times 1.111 \doteq 166.61$